

ねこのみちの家

兵庫県高砂市の住宅街に建つ、5匹の猫と夫婦の住まい。
 猫たちは家に付くと言われ、その家の中に快適な環境を発見していきます。そんな猫たちにとっての居場所のあり方を、主題に計画を進めました。
 猫たちを観察すると、ゴロゴロとくつろぐ場面とともにウロウロと場所を探す場面が多いことに気づきます。いつも同じ所を選ぶわけではなく、その日の微細な環境の変化に気づきながら、ときどきの心地よい場所を発見して寝床をさがしているようです。
 そこで猫たちが、ウロウロとさまよえる、ねこのみちが交錯する立体的な住まいを作ることとしました。

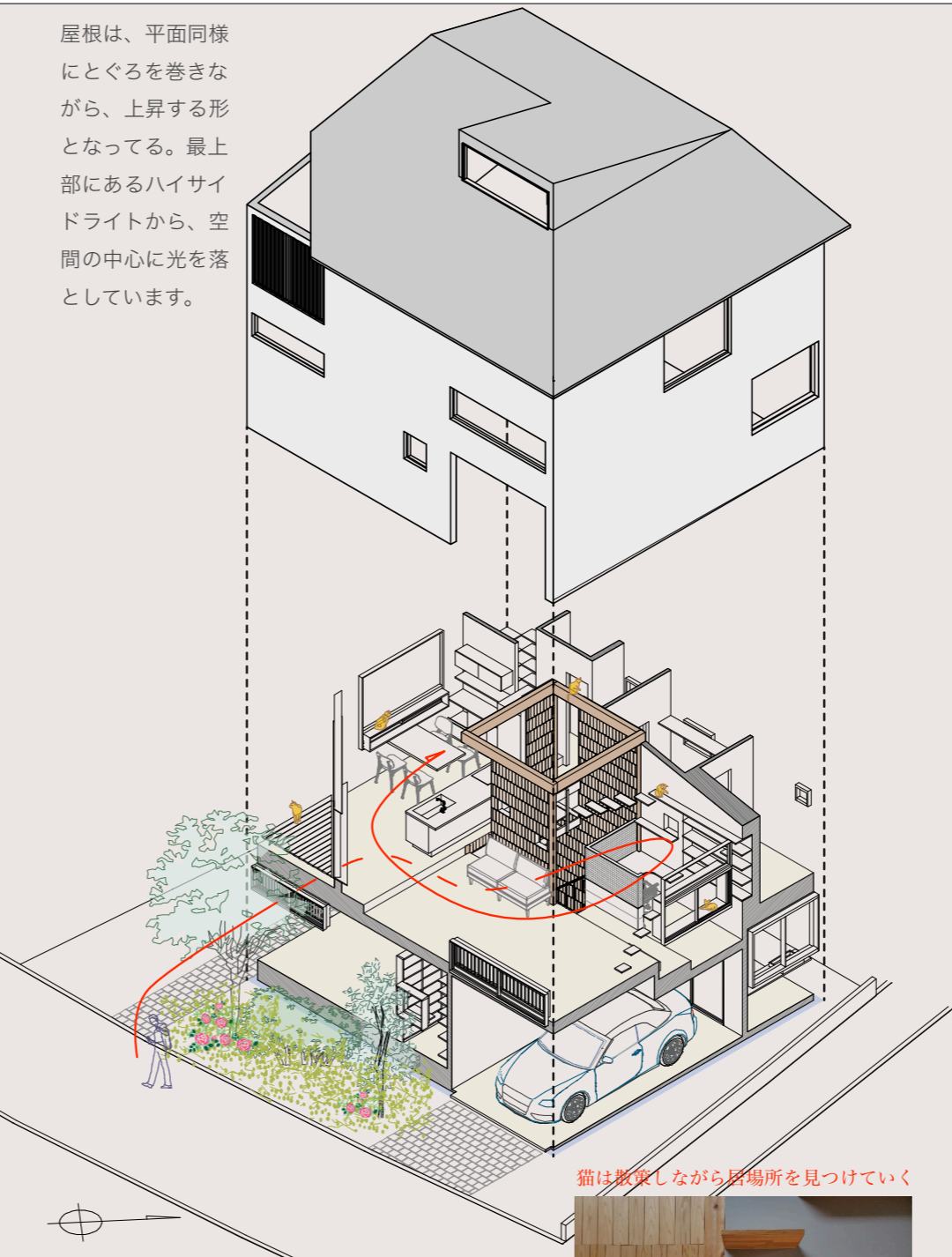


階段室を中心に、各スペースがスキップしながら連続する空間



ワークスペースとキッチンが、光の降り注ぐ吹き抜けを介して向き合う。遠近のギャップにより広がりを感じられる

屋根は、平面同様にとぐるを巻きながら、上昇する形となっている。最上部にあるハイサイドライトから、空間の中心に光を落としています。



猫は散策しながら居場所を見つけていく



熊野杉は油分が多く、経年変化で艶もよく出る。上記写真は2年後の様子

規模	木材リスト
敷地面積：147.22㎡	土台/大引：桧/兵庫県
1F床面積：61.24㎡	階段室化粧柱：杉/兵庫県
2F床面積：58.44㎡	羽目板：杉/三重県熊野
延床面積：119.68㎡	

住まいの中心に2層吹き抜けとなる階段室を設けている。各スペースは、階段室の廻りをスキップしながらぐるりと取り囲むように配置され、ワンルームでありながら各場所に、光や風の流れ、交差する視線など多彩な変化を感じられる構成となっている。
 この階段室は、熊野杉の羽目板と兵庫県産の杉柱で組まれた木製のキャットタワーのような空間となっている。上下階の移動だけでなく、透けたブリッジや、キャットウォーク、猫用の小さな出入り口など複数の[ねこのみち]をそなえ、また1階から2階への空気の流れ、ハイサイドライトからの光など自然環境を呼び込むスペースともなっている。
 熊野杉は、温暖多雨な気候と良質森林土壌に恵まれて油分を多く含んでいて、防汚性の高い木材である。猫は時折壁にマーキングを行うため、匂いや汚れく、調湿性の高さも利点である。または上記のような様々な細工が取り付け壁なので、木目のスケール感を調整しながら、ハイサイドライトからの光をより繊細に感じさせるため、羽目板をブロック状に張り巡らせることとしている。



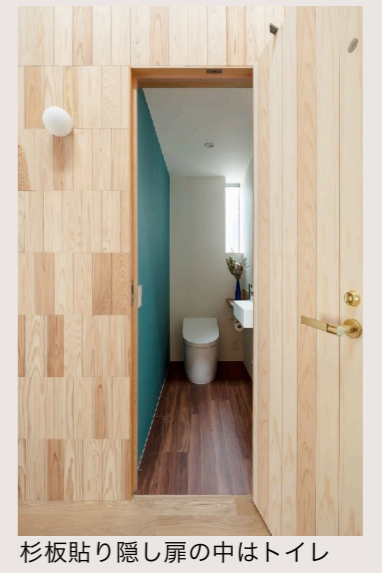
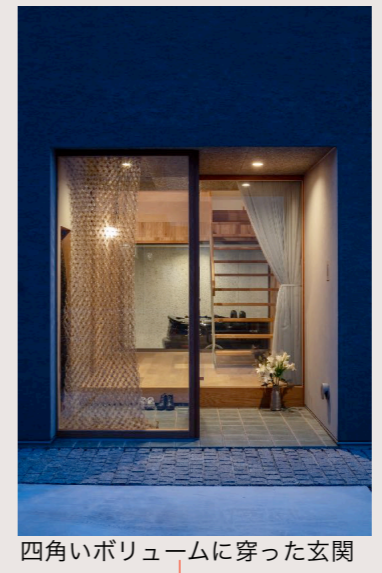
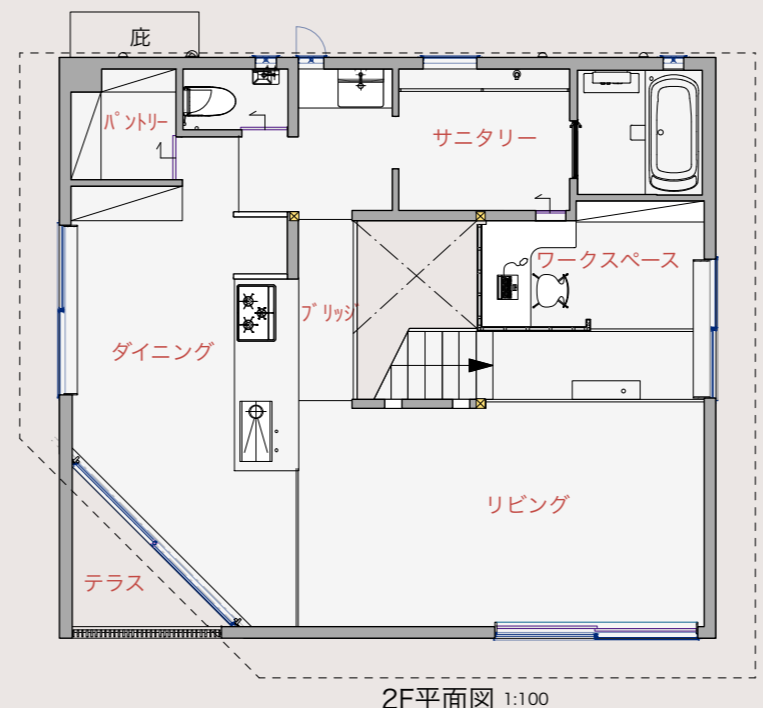
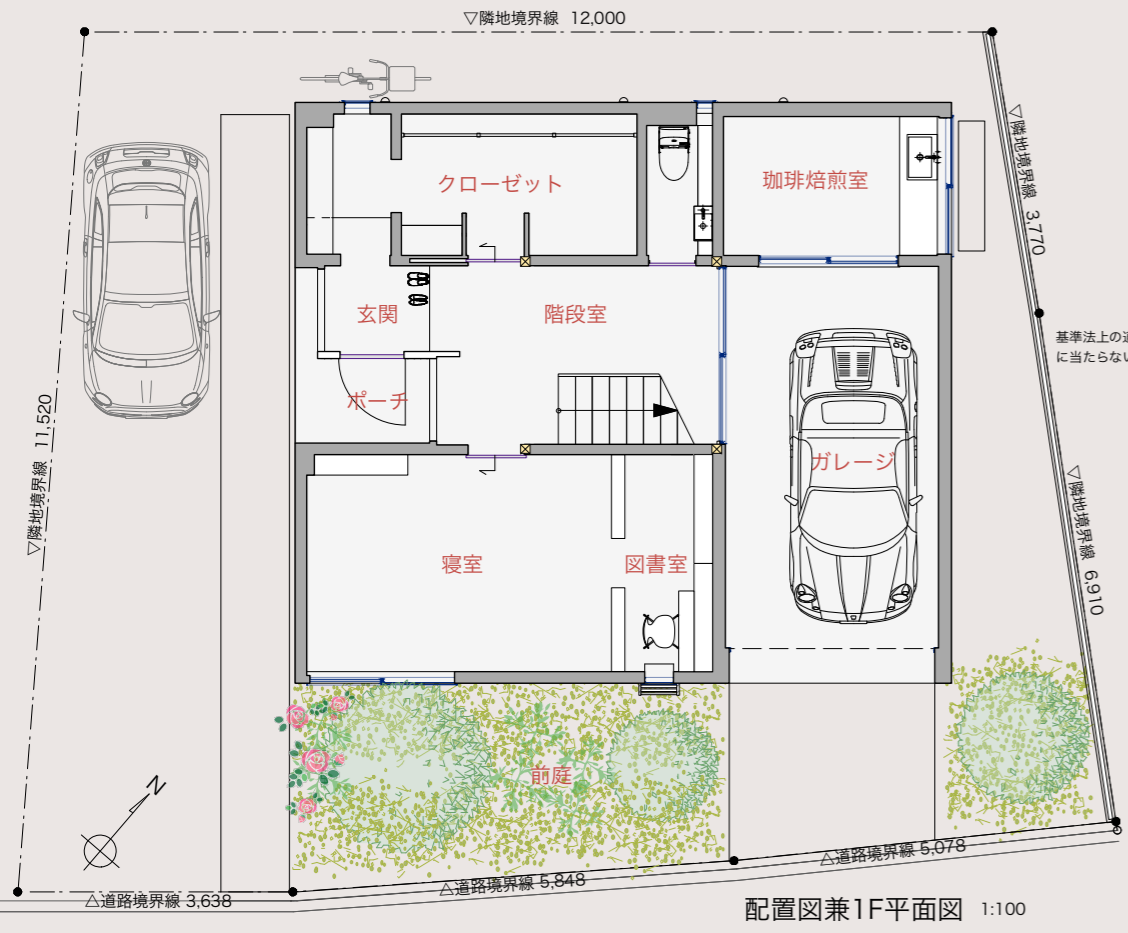
階段室から連なるキャットウォークは室内の窓を横断しながらリビングへ至る



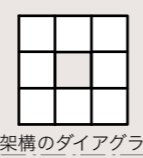
[キャットタワー]のような空間・人と猫の様々な[みち]が交錯する



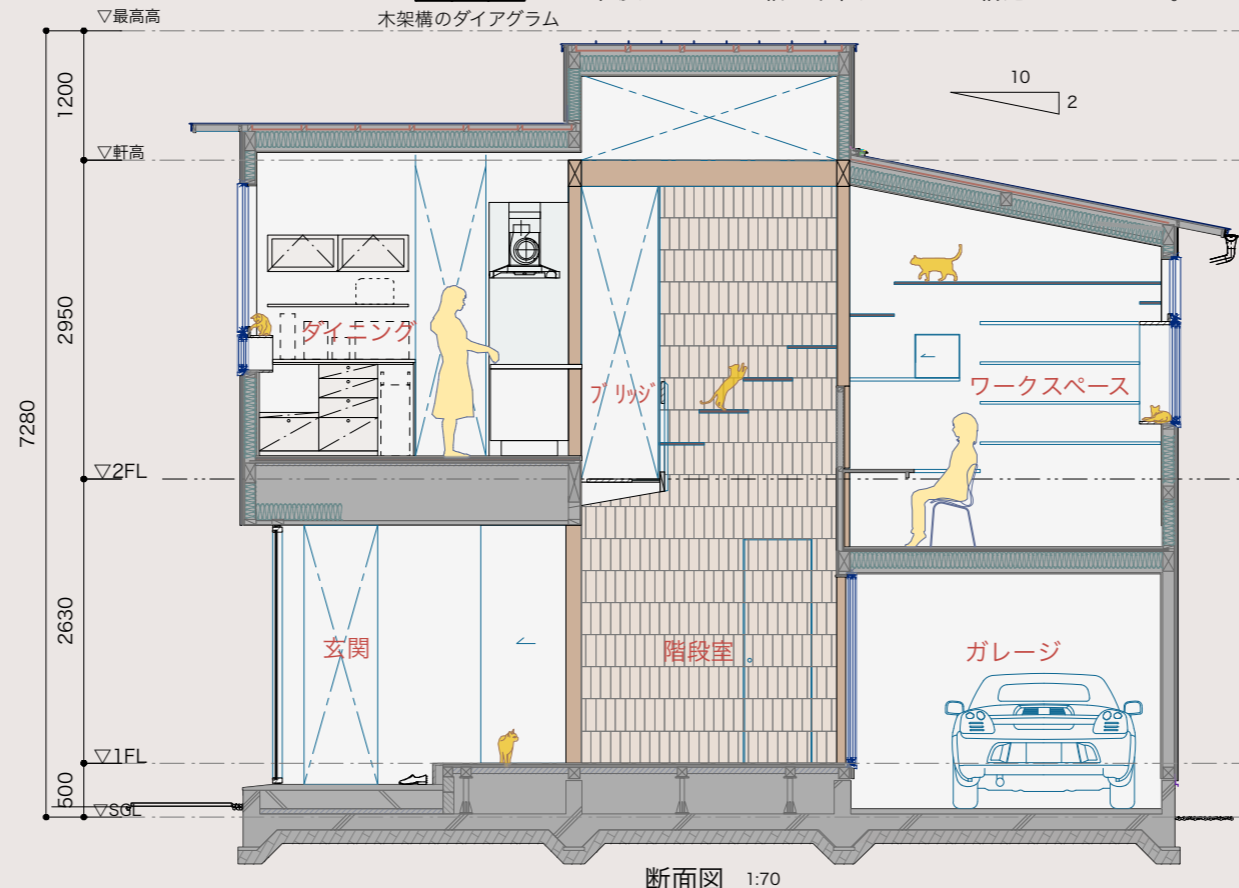
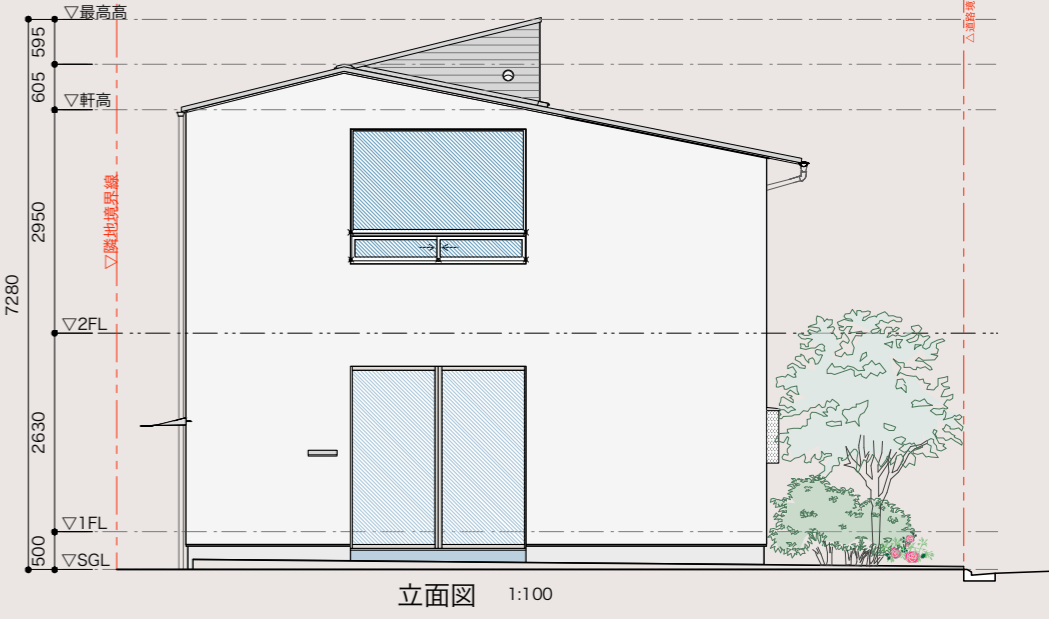
ぐるりと廻る空間の隅には、半外部空間を



施主からは、猫との暮らしとともに、様々なスペースを求められました。
 ・仕事のスペース(猫の出入り可能)・趣味としては始める珈琲の焙煎、いずれはテイクアウトのcoffeeスタンドをしたい・読書のためのスペース
 ・愛車を身近に感じられるガレージ、などなど。
 夫婦それぞれの活動が独立しすぎないように、床の高さとスペースの向きに変化をつけて構成した。スキップフロアかつ中心の階段室からロの字型に渦を巻くようにスペースを連続させた平面としている、これにより距離を感じながらもお互いの様子も伝わる、開放的な空間となっている。



木架構は、階段室を中心に据えた、9マスで構成されている。床の段差や、複雑な勾配屋根であるが、中央の吹抜空間から3m程度のスパンで納まり、無理のない構造となっている。



住まいの中心にそびえる、キャットタワー状の空間。周囲のスペースはスキップしながら連続して繋がり、視線の抜けや、4周にある窓からの採光・通風が得られる立体邸な空間構成となっている



1970年頃から開発された住宅地。道路側には近接して建つ家が多いなか、オープン外構として町並みに緑の彩りをもたらしている。道路側の窓には障子を組み視界を調整する